

施設整備状況と新規整備計画

(1) 施設整備状況について

第8期計画期間における施設・居住系サービスの整備状況は、令和5年度に介護療養型医療施設1か所が介護医療院に転換し3か所になり、混合型特定施設入居者生活介護は令和4年度に3か所、令和5年度でさらに1か所整備し5か所になりました。

地域密着型サービスは、認知症対応型共同生活介護・地域密着型特定施設入居者生活介護を令和4年度及び令和5年度に1か所ずつ整備しました。

施設・居住系サービス

サービス名		令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込み)
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	か所	7	7	7
	定員	430	430	430
介護老人保健施設	か所	5	5	5
	定員	440	440	440
介護療養型医療施設	か所	1	1	0
	定員	48	48	0
介護医療院	か所	2	2	3
	定員	170	170	220
混合型特定施設入居者生活介護 (介護付き 有料老人ホーム又はケアハウス)	か所	1	4	5
	定員	40	230	290

地域密着型サービス

サービス名		令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込み)
介護老人福祉施設 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)	か所	5	5	5
	定員	145	145	145
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	か所	4	5	6
	定員	72	90	108
地域密着型特定施設入居者生活介護 (介護付き 有料老人ホーム)	か所	0	1	2
	定員	0	17	58
小規模多機能型居宅介護	か所	1	1	1
	定員	25	25	25
看護小規模多機能型居宅介護	か所	1	1	1
	定員	29	29	29
認知症対応型通所介護	か所	1	1	1
	定員	12	12	12

(2) 新規整備計画について

1. 背景

次期計画期間（令和6年度～令和8年度）中には、団塊の世代が全員75歳以上となる2025年（令和7年）を迎えることとなります。また、高齢者人口がピークを迎える令和22年を見通すと、85歳以上人口が急増し、医療・介護双方のニーズを有する高齢者など様々なニーズのある要介護高齢者が増加する一方、生産年齢人口が急減することが見込まれています。

2. 本市の推計と分析

高齢者人口は年々増加すると推計され、令和22年には、令和5年と比較し高齢化率が25.9%から35.8%、後期高齢者割合も14.1%から18.5%へ上昇し、85歳以上の高齢者数は1.64倍と推計されます。さらに、要支援・要介護認定者数についても1.32倍と推計されます。

今後においては、介護予防により一層注力し、要介護状態になることをできるだけ防ぐ（遅らせる）こと、そして要介護状態にあってもその悪化をできる限り防ぐこと、さらには軽減を目指すことが重要です。それと併せて、常時介護を必要とし、在宅での生活が困難な高齢者に対しての受け皿についても検討が必要です。

本市においては、2040年の目指すべき都市の将来像イメージ「共に支えあい いきいきと心優しさ溢れる おたがいさまのまち和泉」の実現に向け、5つの基本目標を着実に実践し、地域包括ケアシステムの深化・推進を深め、地域共生社会の実現を図る必要があります。

3. 施設整備の基本方針

施設待機者の状況や医療計画との整合を踏まえつつ、要介護認定者の増加をはじめ、ひとり暮らし世帯の増加や医療と介護の双方を必要とする高齢者の増加など本市の実情を考慮し、常時介護を必要とし、在宅での生活が困難な高齢者に対して、生活全般の介護を提供する施設である介護老人福祉施設（地域密着型、広域型）の整備を図るものとします。具体的には、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護29床に加え、短期入所生活介護の空き床転用等を想定し、特別養護老人ホーム10床の増床、合計39床を整備するものとします。

サービス名	令和6年度	令和7年度	令和8年度
介護老人福祉施設 (地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護)	0床	29床	
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	10床		